

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を大切にする。町内会推進運動には積極的に参加、協力、支援を心掛けています。「老人会への参加、町内清掃参加、町内独居生活の高齢者へ一声運動の参加」等にて地域の中で交流を培っています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月例会議にて理念に基づいて業務遂行を図っているか、みんなで意見交換をし、意識付けをする。朝礼時、全員で唱和することによりご利用者、個々のケアプランに反映する。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関の見やすい場所に「理念」を掲げている。家族会にて、理念に基づいた「ケアプラン」を説明し同意をいただく。ホームの月間情報誌を家族、町内、役所へ配布する。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時の声掛け、挨拶の励行 ホームの野菜作りに近隣の方にボランティアで教えていただく。地域の作物の購入(米、野菜類)		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には積極的に参加する。毎年「敬老会」の祭事に余興をお披露目しています。又、ホーム内行事には地域へ案内状を配布して参加を呼びかけています。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	役所(介護保険課)及び民生委員、老人会会長より、地域高齢者の現状を教えていただき、必要とあれば当ホームの相談員が訪問相談を受けられる体制をとっている。		相談に訪所される地域の方はまだまだ少ないです。気軽に地域の方が訪問できる体制を地域有力者の方達にも協力していただき今後も地域へ貢献を図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	職員全員に3ヶ月毎に「自己評価」を行い、全体会議にて評価を活かし、職員個人及び全員で改善に取り組んでいる。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	定期毎に実施し、報告、情報交換を行いカンファレンス会議にて意見交換を行っている		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村、社協の研修には積極的に参加して内容を皆で検討し、即実行できるように具体案まで落としとしてホーム内へフィードバックして行く。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	管理者は研修に参加しています。必要とされる方への窓口を設けています。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	日常より様子観察に努めています。どんな小さな異変にも見過ごす事なく、全員で厳しい目で観察力を養うように心掛けています。		職員個々において介助の度合い(力の加減)の差が見受けられるため、職員の差を無くす為にも疑似体験を行えるように研修を設ける。
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時には、2人以上で立会い、説明上納得していただき、契約を交わすようにしています。解約時も同様です。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。利用者から訴え時、異変時を察知した時は傾聴につとめ 対応する。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所時に利用者に関しての報告する時間を設けている。全職員が報告できる体制をとっている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時、電話等に「一声かけよう」を心掛けて、ご家族側からホームに対して意見、要望、苦情を話しやすい体制作りを全員で心掛けています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、全体会議の中、勤務中の時間内に限らず、意見、提案を発言できる体制を心掛ける。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来る可能な限り対応に努めています。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が利用者からみて顔馴染みとなるように合同での行事を行っている。全職員が2ユニットの利用者を把握し、信頼関係、コミュニケーションをとるように心掛ける。2ユニット同士で互いに応援体制をとっている。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	採用時より3ヶ月間を研修期間とし、終了後に代表者及び管理者3者面談にて、双方納得の上にて入社を決定している。職員個々において、得意とする分野を大いに発揮できるように配置し、楽しく仕事が、できるように心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年、個人情報に関する研修はホーム内で行なっている。職員よりの疑問、質問に対してはカンファレンス会議にて前向きに対応しています。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月例会議等で職員の不得手の部分を実地にて補習し、全員が介護、業務、情報に関して統一したものを共有出来るようにする。外部の研修内容を職員に閲覧し、受講希望者には率先して受講出来る体制をとり、受講内容をホーム内へフィードバックする。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との会(定例会、グループホーム会等)へ参加し、勉強会、意見交換を実施している。又、合同レク等に参加することで他の職員との交流の場を設け、サービス向上UPへとつなげている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望休を優先し、負担にならない様、業務調整をしている。職員同士で食事会、レクレーションを実施している。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月度毎に目標を掲げ、達成感を称え合い、認め合い次のステップアップとする。チームワークの結束につながる。互いに良き点をほめ合い短所は互いにフォロー仕合、「お互い様」精神で業務が楽しく遂行出来る様に努めています。		業務内容量に職員間で差がないように全員で日々の中で確認が出来ることを実践中です。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と関わる時間をより多く持つことにより、本人の不安や要望を正確に察知する。		職員の感情移入を避け、正当な判断が出来ることに努める。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来所持に利用者の日常の様子を伝え、安心していただき、家族から相談を受け易い、雰囲気作りをしている。(笑顔でやさしく接する) 又、家族にはなるべく現状を正直に伝達し理解を得、家族と共に利用者をサポートする意識を確立する。		家族が決してホーム任せになることの無いように、利用者の情報、現状把握の上、ご理解していただき内容はすべて家族と共有化できるように進行中です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望にてリハビリマッサージ施行しています。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常に何事も家族との話し合いのもとで本人が安心、快適に過ごせる様に、当初一ヶ月間は暫定プラン(生活暦を参考に)立て状況を観察し、本プランへと連動させる。問題点が生じた時は家族との相談上、内容変更を行う。あくまでも本人のペースにそって段階を追っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の自主性を発揮できる場面を作り、出来た事に喜び、生活の中で自信を持っていただき、出来る事柄を増やせる様に自立支援する。		どんな小さな事でも本人が頑張っている事を見過ごすことなく認め合っていきたいです。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	方針である、本人、家族、職員が常に三身一体として考えています。本人と家族が良い関係が保てるようにサポートしています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人にとって最良の時間を過ごせる様に家族と連携を密に取り、支援を心掛けている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が会いたい人といつでも会える様に家族に協力していただいている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	本人が気の合った利用者で過ごせる場作りをしている。孤立しない様にできるだけ職員も中に入り楽しく過ごせる様に見守っている。		好き嫌いの強い利用者にはトラブルの無いように細部による見守りを心掛けています。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節ごとの挨拶状の送付。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中の会話で、本人が希望とする事柄を正確に捉え、本人の希望に添える様に本人と話し合いを持っている。	
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントを元に詳細に聞き取りを行う。又、本人の体験入所の期間中、迅速にて背景を知る事を努めている。	本人を把握することについては、職員単独の意見でなく、複数の意見を参考にしている。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活様式も十人十色であり、本人主体を重視しながらホーム生活と上手く運動でき、本人自身の生活が活性化されるように一日の過ごし方を立案する。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で変化が見受けられる場合は、(本人、家族、管理者、担当職員)のもとカンファレンスを行っている。	
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の中でどんな変化にも見逃すことなく、職員間の「ホウレンソウ」を基本とし、常より検討している。	
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の生活状況を正確に観察し、個人日誌や申し送り等にて情報を共有し反映している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望を可能な限り対応しています。 外出、外泊、来所時間の無制限、家族宿泊等支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	SOSネットワークの利用。(利用者が外へ出て徘徊などで行き先不明な時、地域みんなで探せるように前もって利用者のプロフィールを役所に届出をする)		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	該当者ありません。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	該当者ありませんが、必要性が有れば相談窓口を設けています。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重要視に受診、服薬管理を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者に変化を生じたごとに相談や、診断、検査を受けられる認知症専門の係りつけ医がいます。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護師により健康管理や受診体制をとっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先との連携を取り、早期退院に向け情報交換をしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に家族、かかりつけ医と連携を取り変化に応じた対応をしている。その対応方針を全員で共有する。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の希望、要望を聞き、常に状態の変化をかかりつけ医及び家族に報告し、密な情報交換をしている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族からの了解を得て、「その人らしい」生活が出来る様に情報提供している。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃より注意を促し、職員同士で気付いたごとに話し合いを持ち、改善できる様にしている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声掛け、相談により本人の希望に添える様に支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者と相談し、一日の日課を決定し実行できる様に全員で支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族と共に行きつけの美容室に出かける機会を作る等や、3ヶ月毎に馴染みの美容室の方に来所していただき、本人の好みのヘヤースタイルにカットすることで気分転換される。毎月「べっぴんしゃんの日」を設け、顔そり、美顔を施行している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「選ぶメニューの日」を作り、利用者と話し合いの上決定する。準備(買物)など担当を決め、楽しんで行える様に支援している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の希望時により、又体調も考慮し、楽しめる様支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、個々に合わせたトイレ誘導、声掛けを行っている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各棟にて入浴日を別にしてしているので、いつでも日中入浴可能な体制を取っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望を優先し、臥床、休息される時間帯を個々に決定してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の出来る等を見出し、継続出来る様に支援している。作品作りを通し完成後の喜びを共に味わえる様に支援する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の要望により、おこずかいを預かり買物に同行し、支払いが出来る様にしている。本人と共に「こずかい帳」への記入をしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所散歩や、屋外レクなど日常的に行っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に協力し、支援を行っている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全面的に支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時に「楽しいひと時」をすごしていただける様に空間作り雰囲気作りに心掛けている。又、本人の嬉しいエピソードを訪問者に話をし、場が盛り上がる様に支援する。「当ホームでは、時間制限なく、いつでも気軽に来所できます」		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解している。「拘束の無い」介護に取り組んでいます。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない体制です。 但し、19:00～7:00まで防犯のため施錠する。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士の声掛けにて、利用者の所在確認を行っている。夜間時は壁に巡視を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	事故等を未然に防ぐために、本人、家族との話し合いのもと除去の決定を行う。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットの活用にてカンファレンスを行い再発事故のない様に取り組んでいる。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に勉強会を実施している。又、必要時ごとに再度研修をしている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練の実施。 地域の方々に協力を得られるように来所時や訪問して協力をお願いします。 「近場の方、民生員、区長、老人会長」の方々です。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の変化に応じ、双方で話し合いを行っている。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の健康観察時に体調の変化に速やかに対応できる体制を取っている。「24時間医療体制」の確保有り。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の症状(持病)を職員全員が理解し、内服状況を把握できる様にしている。 内服の変更時は正確に伝達できる様にしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者全員「毎日の排便チェック表」を比較しながら、食事面、水分補給量、運動量などで改善に努め、Dr指示の元服薬管理を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛け、見守り、介助に口腔ケアを行っている。 週2回の洗浄剤にて清潔管理をしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の活用、バランスの取れたメニュー作りを心掛け、利用者の食べ物の好き嫌いに関しては調理方法や盛り付けに工夫している 又、本人の好物を時折個々に出す事もある。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の衛生管理をチェック仕合、「マニュアル」にて勉強会をしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎夕、調理用具の消毒を行い、食材については日付の書き込みを行い、先入れ先出しを徹底している。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	来客の方が安心して玄関の出入りができる様に、明るい笑顔で迎え、同様に見送りまで全員で徹底している。玄関周りには観葉植物や季節の花々で来客をおもてなししています。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に季節感を演出するために利用者と共に話し合い題材を決定する。手作り物をみんなで協力し合って作る、共同作業の大切さ、達成感を分かち合ってもらえる様に見守り支援する。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなどの配置を数箇所設け、気の合う方と楽しく過ごしていただける様にホール内の空間作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活と同じ様に、馴染みの家具などの配置に配慮し、本人にとって違和感のないようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間を決めて換気する。 服装、下着等に配慮し体温調節を心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を徹底し、ホール空間内を自由に安全に歩行が出来る広さを確保している。、手スリの有効活用を行う。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室のドアに表札を付け自分の部屋があることに安心していただく。洗濯物を職員と共に直すこと、自分の持ち物の名前を確認する、テーブルに座る定位置を分かる様に工夫する、夜は寝巻きに更衣する等日常生活の流れを共に無理のないように見守り、支援する		
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りは整備し安全の確保に心掛け、イスやテーブルを設置してくつろげる空間の提供。気分転換の場作りとしてバルコニーでランチやおやつをいただく日をつくる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

6月の家族会前に全職員へ「自立支援」について、徹底的に話し合いを持ちました。職員個々において、見方、考え、介護方法に偏りがある事に互いに気付かされ、大いに意義のある話し合いでした。結果「主である利用者サイドの立場でなく、ややもすると職員サイドで事を運んでいた」このことに反省させられました。この機会に洗い直しを更に落とし込み、利用者個々の自立支援を見直し、職員全員が正当な見方により双方が支援、介護に納得、理解を得、全職員が共有化して行くことになりました。6月の家族会の新プラン内容は全職員の心がいったケアプランをなりました。今後も出来ているだろうと過信することなく「見直し」を全職員であることを会議で決めました。

施設長の方針

ご利用者 = ご家族 = 施設 この3つの関係が等しくバランスの取れた正三角形を築いていきたいことです。

私達は、ご利用者と家族の関係が上手く育てる様、常に見守り支援することです。

1にもご利用者、2にもご利用者、あつての家族、私達があるのです。

上記の通り、理念に基づきご利用者の介護に取り組んでいます。

